

学校教育目標	健康な心と体をもってたくましく生きぬく子					
	(知) 自らの課題解決に向けて、じっくり考え判断し、伝えたいことを自分の言葉(考え)ではっきりと表現できる子どもを育てます。 (徳) 自分にしっかりと向き合い、他者を思いやり、礼儀正しく行動することができる子どもを育てます。 (体) 自分や人の生命を大切にするとともに、心と体の健康のために生活改善ができる子どもを育てます。 (公) 様々な人々とのかかわりや学んだことを生かして、ものの見方や考え方をひろげながら、自らの生き方を切り拓いていくことができる子どもを育てます。 (開) 地域の一員として「ひと、もの、こと」に積極的にかかわり、課題に気づき、解決していこうとする子どもを育てます。					
学校概要	創立 35 周年	学校長	副校長	2 学期制	一般学級：12	個別支援学級：2
	児童生徒数： 392 人	主な関係校： 富岡中学校 能見台南小学校 富岡小学校 西富岡小学校 小田小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	富岡中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
伝え合う力	富岡中学校 能見台小学校 能見台南小学校 富岡小学校 西富岡小学校 小田小学校	TWO YOU～優・勇～ 優・「自己にも他者にも思いやりのある子」 勇・「未来を見据え、一歩踏み出し、表現できる子」 ----- 子ども一人ひとりの学びの姿に、全ての教育活動で身に付けた汎用的な能力が発揮できるよう、Y-Pアセスメントを活用した教育や、人権教育全体計画に基づく教育の運営・改善(実施・評価)を通じた教育実践により、富岡中ブロックの子どもたちに必要な資質『TWO YOU』を視点とした子ども達の育成をめざします。

中期取組目標	・考えを広げたり深めたりしながら主体的に活動する中で「伝え合う力」をさらに高め、「たくましく生き抜く子」を育成する。 ○年度初めに子どもたちの実態を把握し、伝え合いを通じた「たくましく生き抜く子」の具体的な姿を設定し、学校全体でめざす姿とする。 ○「伝え合う力」を育成するために、子どもたちが主体的に取り組める授業が展開できるように、授業改善に取り組む。 ○生活・総合を中心に子どもの思いや願いを大切にしたい課題解決的・体験的な活動を充実させる。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①「伝え合う力」の育成に向けて、研究部を中心とした校内授業研究会(年6回)を実施する。 ②各教科で身につけさせる資質・能力を明確にした授業づくりをする。学習材や単元や一単位時間、課題の設定、振り返りなどの工夫をし、「伝え合う力」を育成する。
担当	教務部・研究部	
徳	人権教育	①学校教育目標からめざす子どもの姿を具体化し、それを視野に入れた教育活動を実施する。特に「まち」や人とのかかわりを大切にしたい学習を展開し、自己有用感や自己肯定感を育てる。 ②人権週間や「子ども会議」のテーマをもとに人権について考え、一人ひとりが認め合い、安心して過ごすことができる学校づくりをする。
担当	教務部・児童支援部	
体	健康教育	①健康目標を設定し、その達成に向けて取り組んだことを「能見台健康会議」(年3回)で学年や異学年、全校で話し合うことで健康の大切さを理解し、実生活に活かそうとする子どもを育てる。 ②体力テストの活用を図るとともに、体育科学学習を中心とした活動を通して運動の楽しさを実感し、自ら進んで運動に取り組もうとする子どもを育てる。
担当	教務部・児童指導部・体育部	
公開	自分づくり(キャリア)教育	①「横浜の時間」(生活・総合)を中心に、能見台の「まち」で体験的に学ぶ機会を積極的に設定し、地域や社会のために自分ができることを考え、他者と協働しながら課題解決を図る力を育てる。 ②「能見台っ子フェスティバル」で自分の思いを表現したり、「自分づくりパスポート」で自己の変容や成長に気づいたりすることを通して、自分らしい夢や目標をもち、生き方を考えようとする態度やよりよい社会をつくるために自ら考え行動し続ける態度を育てる。
担当	教務部・生活総合部	
	人材育成・組織運営(働き方改革)	①教務会を行い、ミドルリーダーを中心に学校運営への参画意識を高めたり、全体を見通して推進したりしていく場を設定する。 ②学年会A(学年主任)と学年会B(主任以外)を開催し、教育目標達成に向けた取組や身につけさせたい資質・能力についてなどのテーマに合った話し合いをする。 ③ミドルリーダーを中心としたメンターチームを設立し、年間を通して計画的に研修(年18回)に取り組む。 ④専科指導による空き時間を学年でそろえ、その時間に学年研を行えるようにしたり、ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図ったりすることで、教職員の組織的な働き方改革につなげる。 ⑤ICT推進チームを中心に、市研やAB研、タブレット端末で作成した資料を集め、活用できるようにする。
担当	教務部・研修部	
	GIGAスクール構想	①ICT推進チームを中心にタブレット端末の活用について研修し、教員のスキル向上を図るとともに、教育活動の中で効果的に活用していくことができるようにする。特に学習の中にタブレット端末を積極的に活用し、子どもたちの「深い学び」につながる授業を展開したり、情報処理能力を育成したりすることができるようにする。 ②「Googleclassroom」や「ロイロノート・スクール」の活用方法を整え、学校と児童、学校と家庭の双方向でのやり取りや教職員の会議や情報交換などができるようにする。
担当	教務部・ICT推進チーム	
	児童生徒理解	①職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。 ②「Y-Pアセスメント」(年2回)や「Y-P Zuzie」を活用した校内研修を行い、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。 ③不登校児童、家庭へのこまめな連絡をし、学習の支援の在り方を探り、学びが継続できるようにする。
担当	教務部・児童指導部	
	いじめへの対応	①いじめについて積極的に認知し、子どもの心情に寄り添うことを徹底する。 ②職員会議等の機会を利用し、月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努める。 ③年2回のいじめアンケートを実施し、些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
担当	教務部・児童指導部	